

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-262558

(43)Date of publication of application : 14.11.1987

(51)Int.Cl.

H04M 11/04
G08B 25/02

(21)Application number : 61-106379

(71)Applicant : NEC CORP

(22)Date of filing : 09.05.1986

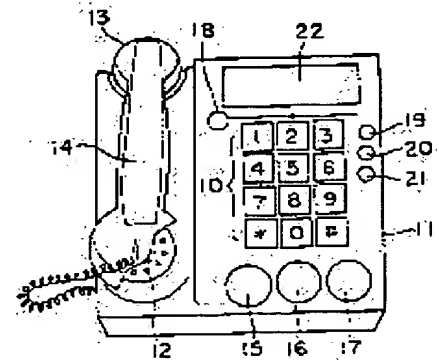
(72)Inventor : KAMESAKA NORIHISA

(54) TELEPHONE SET WITH AUTOMATIC MESSAGING DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To precisely and easily notify an establishment concerned of abnormality in an emergency by adding emergency button and a sound reproducing device to a telephone set.

CONSTITUTION: A telephone set with an automatic messaging device is provided with three buttons showing fire, disease and crime 15, 16 and 17, a sound recording button 18, sound recording fire, disease and crime buttons 19, 20 and 21, and a sound recording and reproducing device 22. If any one of the fire, disease and crime buttons 15, 16 and 17 is depressed in an emergency, automatically the reproducing device 22 operates to emit a sound from a speaker. The sound is announced to an establishment concerned from the reproduction speaker 12 of a handset 14. These buttons are structured in such a way that they cannot be depressed unless their surface covers are teared not so as to depress mistakenly.



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-262558

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)11月14日

H 04 M 11/04
G 08 B 25/02

8020-5K
A-7135-5C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 自動伝言装置付電話機

⑯ 特 願 昭61-106379

⑰ 出 願 昭61(1986)5月9日

⑱ 発 明 者 亀 坂 宜 尚 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑳ 代 理 人 弁理士 染川 利吉

明 細 書

1. 発明の名称

自動伝言装置付電話機

2. 特許請求の範囲

火災、病氣、犯罪等とそれぞれ表示した3個の
紐と、火災の紐を押された時には消防車の、病氣
の紐を押された時には救急車の、犯罪の紐を押さ
れた時にはパトロールカーの要請を促す伝言を自
動的に送出するように回路設定された録音及び再
生装置とを有することを特徴とする自動伝言装置
付電話機。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、緊急時の通報連絡機器に関し、特に、
非常事態が発生した場合、電話機に取り付けた3
個の非常紐を押下することにより、すみやかに緊
急事態の発生を正確に所轄の施設に連絡すること
ができる自動伝言装置付電話機に関する。

(従来技術)

従来的一般加入者用電話機には、緊急時の自動

伝言装置は付属されておらず、110番または
119番等の特定ダイヤルの操作をするか、ある
いはその都度電話帳や予め書き抜いておいた自製
の電話メモ帳等をみてダイヤルするしかなかった。

(発明が解決しようとする問題点)

上述の如く従来的一般加入者用電話機では、緊
急時には110番や119番をダイヤルし、オペ
レータと交信するのが通例であるが、使用者にと
つてこの交信する時間が長くなり、応急処置の時
間が少くなるか、犯罪の場合は不可能である一方、
緊急時には精神状態が不安定になるのでダイヤル
ミスをしたり、伝達内容が誤つたりすることがあ
り、特にろう又は啞者あるいはこれらに近い老人、
その他幼児等がひとりて在宅している時には緊急
連絡が出来ないという欠点がある。

(問題点を解決するための手段)

本発明の自動伝言装置付電話機は、電話機本体
に火災、病氣、犯罪等とそれぞれ表示した3個の
紐と、これらの紐を押下した時に前記紐の極類に
対応して消防車、救急車、パトロールカーの要請

を促す伝言を自動的に送出する録音及び再生装置とを有して構成されている。

(実施例)

次に、本発明について図面を参照して実施例につき説明する。

添附の図面は本発明の実施例に係る電話機の外観斜視図である。この電話機は通常の押鍵部分10を備えた本体部11と再生用スピーカ12および受信用スピーカ13を備えた送受器14を有し、一般加入者用電話機として使用されるが、このほか本体部には、火災、病氣、犯罪用と表示した3つの鍵15、16、17と、録音鍵18と、録音用の火災、病氣、犯罪鍵19、20、21および録音再生装置22が設けられている。

緊急時には火災、病氣、犯罪のいずれかの鍵15、16、17を押下すれば、自動的に再生装置22が作動して音声がスピーカから流れ、その音声が送受器14の再生用スピーカ12から所轄の施設へアナウンスされる。これらの鍵15、16、17は誤って押下されないよう非常鍵となつてお

り、表面の透明カバーを破らないと押下されない機構を有している。録音は録音用火災、病氣、犯罪のいずれかの鍵19、20、21と録音鍵18を同時に押下し、送受器14を上げて送話口で話せば録音再生装置22により録音される。

(発明の効果)

以上説明したように本発明は、電話機に非常用鍵(火災、病氣、犯罪)と音声再生装置を付加することにより、緊急時に正確かつ簡単に誰にでも異常事態を所轄施設に連絡できる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例に係る自動伝言装置付電話機の外観斜視図である。

- | | |
|------------|------------|
| 11…電話機本体、 | 14…送受器、 |
| 15…火災鍵、 | 16…病氣鍵、 |
| 17…犯罪鍵、 | 18…録音鍵、 |
| 19…録音用火災鍵、 | 20…録音用病氣鍵、 |
| 21…録音用犯罪鍵、 | 22…録音再生装置。 |

代理人 弁理士 柴川利吉

